

2023年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023年5月～2024年4月)



大阪クリーンテック株式会社

作成日：2024年12月22日

口ごあいさつ

大阪クリーンテック株式会社は、産業廃棄物の焼却処理事業を通して30有余年、無公害化、完全焼却化、省力化をはかりながら、徹底した廃棄物の減量化を推進させていただくと共に、環境美化に貢献してまいりました。

今後もそれらを維持、発展させながら、地域社会に広げて会社周辺の清掃活動にも取り組み、共生社会の一員としての信頼を培ってまいりたいと考えています。

大阪クリーンテック株式会社
代表取締役 星山 健

環境経営方針

【基本理念】

大阪クリーンテック株式会社は、産業廃棄物の焼却処理を主として、中和、破碎の中間処理を行い、徹底した廃棄物の減量化を推進して環境美化に取り組み、適正処理を通じて、環境保全活動の推進、SDGsへの貢献と持続的な展開が可能な社会づくりを目指します。

【基本方針】

1、環境マネジメントシステムの継続的改善

私たちは、トップマネジメントのリーダーシップのもと、環境方針・目標を事業活動に落とし込み、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境パフォーマンスを向上します。

2、循環型社会形成の推進

資源の持続可能な利用及び資源の使用量削減、廃棄物排出量の削減・リサイクルを推進し、循環型社会の形成に貢献します。

3、環境関連法規等の遵守

環境関連の法律、規制等を遵守するとともに、SDGsなどの社会的要請を企業行動につなげ、環境保全の継続的改善に努めます。

4、気候変動への対応

温室効果ガスの排出を削減し、エネルギーの効率的で持続可能な使用を促進し、気候変動の緩和に努めます。

5、環境負荷低減と環境汚染の防止

自らの事業活動における持続可能な省資源・省エネルギー・リサイクル活動を推進し、環境負荷の低減ならびに環境汚染の予防に努め、化学物質・油等による環境汚染の未然防止・影響の軽減、大気汚染物質の排出削減、廃棄物の排出削減・適正処理に努めます。

6、情報開示とコミュニケーション

従業員一人ひとりが環境問題に対する認識を深め、具体的な行動を行っていくために、周知、啓発活動を推進するとともに、環境方針を公開し、取り組み状況を積極的に開示します。

制定日：2010年10月 1日

改定日：2023年 2月13日

代表取締役 星山 健

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

大阪クリーンテック株式会社
代表取締役社長 星山 健

(2) 所在地

本 社 大阪府摂津市安威川南町3番28号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 専務取締役 浅野 孝一 TEL:072-654-2467
担当者 佐藤 和男 TEL:072-654-2467

(4) 事業内容

産業廃棄物処分業(中間処理)

焼却: 木くず、紙くず、繊維くず、動植物性残渣、廃酸、廃アルカリ

破碎: 廃プラスチック、ガラスくず、金属くず

中和: 廃酸、廃アルカリ

(5) 事業の規模

法人設立年月日 昭和51年7月29日
資本金 8,000万円
売上高 49,700万円
受託産業廃棄物処理量 10,577t
うち再資源化量 2,753t

	本社				合計
従業員	24名				24名
延べ床面積	1411㎡				1411㎡

車両台数

車種	台数	備考
1.5t普通トラック	1	
ユンボ	2	
ショベル	1	
リフト	3	
営業車	1	
合計	8 台	

主要設備

名 称	台数	備 考
破碎機	2	木くず廃プラ破碎用
焼却炉一式	1	焼却用
バグフィルター	1	排ガス浄化用
蒸発晶析装置	1	廃液処理用
圧縮機	1	廃プラ圧縮用

(6) 事業年度

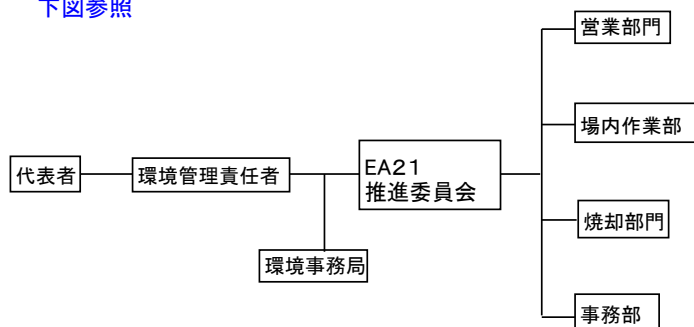
5月～4月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 大阪クリーンテック株式会社

活動: 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の中間処理

組織図: 下図参照



□許可・登録の内容

1. 産業廃棄物処分業(優良認定)

許可行政	大阪府
許可番号	第2720002738号
許可年月日	令和3年2月22日
有効期限	令和10年2月21日
事業の概要	中間処理(焼却、中和、破碎)
許可品目	廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず 動植物性残さ、金属くず、ガラスくず
処分施設	焼却施設(処理能力:80t/日) 中和施設(処理能力48m ³ /日) 破碎施設(処理能力4.9t/日)
施設の設置場所	大阪府摂津市安威川南町1097番2

2. 特別管理産業廃棄物処分業

許可行政	大阪府
許可番号	第2770002738号
許可年月日	令和5年7月1日
有効期限	令和12年6月30日
事業の概要	中間処理(中和)
許可品目	廃酸、廃アルカリ
処分施設	中和施設(処理能力48m ³ /日)
施設の設置場所	大阪府摂津市安威川南町1097番2

3. 収集運搬業

許可行政	大阪府	許可番号:第02700002738号 許可年月日:令和5年7月17日 有効期限:令和10年7月16日
	兵庫県	許可番号:第02803002738号 許可年月日:令和5年8月11日 有効期限:令和10年8月10日
許可品目	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、紙くず 木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず がれき類 (以上大阪府、兵庫県とも共通) ばいじん(大阪府のみ) 鉱さい(兵庫県のみ)	

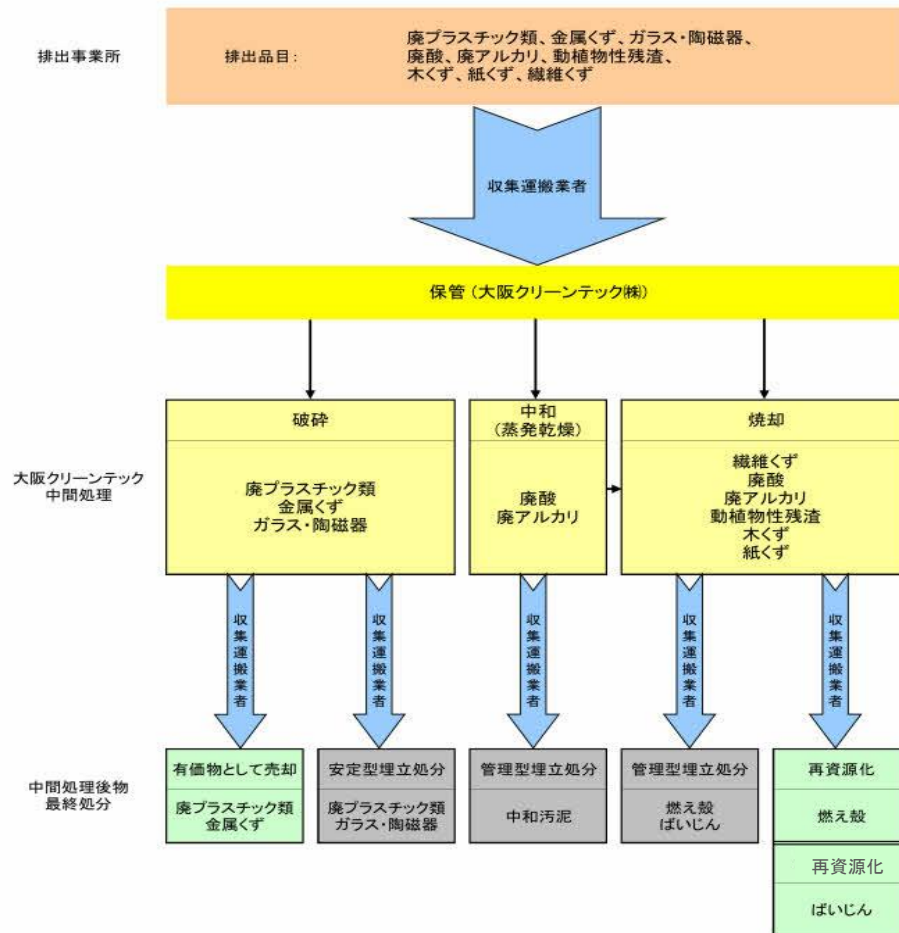
4. 公認計量事業

許可行政	大阪府
許可番号	第730号
事業の区分	質量

□処理料金

廃棄物の処理費用については、その形状、荷姿、組成、濃度などにより変わってきます。
見積にあたっては当社営業部まで御連絡下さい。

□処理工程図



□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量 (電力の二酸化炭素排出係数; kg・co2/kWh)	kg-CO ₂	※930,662	※971,128	※956,012	618,784	614,911
廃棄物排出量	トン					
一般廃棄物量排出	トン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
産業廃棄物排出量	トン	0	0	0	0	0
総使用水量	m ³	25,026	26,801	27,497	22,873	22,484

※電力の二酸化炭素排出係数は関西電力2013年度調整後数値0.522kg-co2/kWhを使用。22年、23年は2019年度調整後数値0.318kg-co2/kWhを使用。

□環境目標及びその実績

年 度 項 目		2021年	2022年	2023年		2024年	2025年
		(実績) 基準年度比	(実績) 基準年度比	(目標) 基準年度比	(実績) 基準年度比	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2*1 基準年度比	806,894 -	477,090 -	- 99.5%	467,867 97%	- 99.0%	- 98.5%
廃棄物処理量当り	kg-CO2/t	36.1	45.6	45.4	44.2	45.1	44.9
重機燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年度比*2	146,908 -	135,022 98%	- 99.0%	142,357 97%	- 98.5%	- 98.0%
廃棄物破砕量1t当り	kg-CO2/t	15.420	15.167	15.266	14.880	15.189	15.112
ガソリンの二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年度比*3 kg-CO2/(km)	2,210 94% 0.1055	6,672 79% 0.0927	- 96.0% 0.1077	4,687 87% 0.0976	- 95.5% 0.1071	- 95.0% 0.1066
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	956,012	618,784	-	614,911	-	-
受託産業廃棄物の最終処分量削減	t 基準年度比*2 最終処分率%	781 - 5.735%	708 - 6.767%	- 99.5% 6.590%	639 89% 6.042%	- 99.0% 6.557%	- 98.5% 6.524%
廃棄物再資源化量の増加	t 基準年度比*4	2,112 351.5%	2,175 361.0%	637 106.0%	2,753 358%	640 106.5%	643 107.0%
地下水の節水	m ³ 基準年度比*5	24,587 75%	20,178 80.0%	- 98.0%	20,791 99%	- 97.5%	- 97.0%
焼却量1トン当り	m ³ /t	2.148	2.241	2.639	2.687	2.626	2.612
水道水の節水	m ³ 基準年度比*2	3,261 -	2,695 107%	- 99.0%	1,693 77%	- 98.5%	- 98.0%
焼却量1トン当り	m ³ /t	0.285	0.308	0.282	0.219	0.281	0.279
事務用品のグリーン購入	指標管理	○	○	-	○	-	-
コピー用紙の削減 (裏紙使用の実績調査)	指標管理	○	○	-	○	-	-
会社周辺の清掃活動	回 基準年度比	4 100%	4 100%	4 100%	4 100%	4 100%	4 100%
焼却温度自主管理値の逸脱率削減	順守率 98%以上	○	○	-	○	-	-
CO濃度自主管理値の逸脱率削減	順守率 98%以上	○	○	-	○	-	-

*1 電力の二酸化炭素排出係数は関西電力2013年度調整後数値0.522kg-co2/kWhを使用。22年、23年は2019年度調整後数値0.318kg-co2/kWhを使用。

*2 基準年度は2021年。

*3 基準年度は2016年の0.1122kg-co2/km。また燃費集計は2016年から開始。

*4 基準年度は2015年の601t。

*5 基準年度は2019年の2.693t/m³

□環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○まあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
電力による二酸化炭素排出量の削減 [数値目標達成]		
・空調機の暖房温度20℃、冷房温度28℃に設定	○	基準年度の変更により目標を達成することができた。来年度も現体制を維持する。
・パソコン省電力の設定	○	
・未使用電灯、機器類の電源切	○	
重機燃料による二酸化炭素排出量の削減 [数値目標達成]		
・アイドリングストップ	○	目標未達成の月も少し見られたが、年間目標は達成できた。来年度も現体制を維持する。
・冷房の控えめ使用	○	
ガソリンによる二酸化炭素排出量の削減 [数値目標達成]		
・アイドリングストップ	○	車両のトラブルもなく目標を達成できた。来年度も現体制を維持する。
・エコドライブの推進	○	
・車両整備を定期に実施	○	
受託産業廃棄物の最終処分量削減 [数値目標達成]		
・分別の強化	○	基準年度の変更により目標を達成することができた。来年度も現体制を維持する。
・燃え殻中の鉄くず回収を徹底	○	
・燃え殻の水きり徹底	○	
産業廃棄物再資源化量の増加 [数値目標達成]		
・分別の強化	○	目標を大きく上回る形で目標を達成できた。来年度も現体制を継続する。
・燃え殻中の鉄くず回収の強化	○	
地下水の節水 [数値目標未達成]		
・焼却温度の適正管理	△	冷却用水の使用増により目標未達成。目標の見直しを検討する。
・場内清掃の効率化	△	
水道水の節水 [数値目標達成]		
・洗物の節水	○	漏水等のトラブルもなく目標を達成できた。来年度も現体制を維持する。
・ボイラー使用水の適正管理	○	
・場内清掃の効率化	○	
グリーン購入 [指標管理]		
・事務用品のグリーン購入強化	○	事務用品のグリーン購入体制を維持できた。来年度も現体制を継続する。
コピー用紙の削減 [指標管理]		
・裏紙の利用	○	裏紙の利用、電子媒体の活用を維持できた。来年度も現体制を継続する。
・電子媒体の活用	○	
社会貢献 [数値目標達成]		
・会社周辺の道路清掃、ごみ拾い、草刈	○	清掃活動は目標通り達成した。次年度もこのまま目標を設定し活動を維持する。
・地元自治会への活動費寄付	○	
焼却温度自主管理値の逸脱回数削減 [数値目標達成]		
・焼却設備の整備	○	安定した数値が続き目標を達成することができた。来年度も順守率98%以上を目標に設定して取り組む。
・押込み空気量の調整	○	
・ストーカ作動時間の調整	○	
co濃度自主管理値の逸脱回数削減 [数値目標達成]		
・焼却設備の整備	○	焼却温度同様、安定して目標を達成できた。来年度も順守率98%以上を目標に設定して取り組む。
・押込み空気量の調整	○	
・ストーカ作動時間の調整	○	
化学物質の使用量把握と管理 [数値把握管理]		
苛性ソーダの使用量・保管料の管理	○	苛性ソーダの日常管理を正しく行えた。来年度も活動を継続する。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	産業廃棄物(木くず、紙くず、廃プラ、金属くず、廃酸、廃アルカリ等)及びその処理方法(焼却、破碎、中和)
大気汚染防止法	燃焼排ガスの有害物質排出規制、定期的な排出量測定、監視
ダイオキシン類対策特別措置法	焼却による排ガス、燃え殻、ばいじんに含まれるダイオキシン類の濃度規制と定期的な測定、監視と行政への報告
騒音規制法	空圧機、送風機、破碎機等の騒音規制値遵守
振動規制法	空圧機、送風機、破碎機等の振動規制値遵守
PRTR法	ダイオキシン類の年間排出量、移動量の把握と報告。
毒物及び劇物取締法	苛性ソーダ、硫酸の取扱い
家電リサイクル法	家電4品目の廃棄方法とリサイクル
自動車リサイクル法	使用済み自動車の適正な廃車とリサイクル
自動車Nox・PM法	自動車排ガス規制適合車の使用
オフロード法	特殊車両(重機)の排出ガス規制
労働安全衛生法	ボイラーの取扱いと定期検査
消防法	消防設備の定期検査、指定可燃物の保管届出と管理
フロン排出抑制法	フロン類使用業務用空調機の定期点検による漏えいの防止

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
行政処分や違反、訴訟等は過去5年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 環境方針 「変更の必要性: □有 ■無」

2. 活動計画 「変更の必要性: ■有 □無」

・地下水の削減の項目の基準年度変更を検討する。

3. その他 「変更の必要性: □有 ■無」

4. 総括

・地下水の節水の項目で目標未達成となってしまったが、しっかりと原因究明がなされ必要な判断がされている点は評価できる。

・ガソリンの削減の項目において、今年度は800ℓ以上の削減がなされている。燃料費の高騰の影響を考えると環境への影響だけでなくコストパフォーマンスの向上も達成されている。

・地下水の節水以外は全て目標達成となっており、従業員一人一人に環境活動意識が根付いてきていると判断できる。今後も小さなことからでも環境活動を意識し、環境保全に寄与していく。

実施体制とコメント

・目標達成項目が非常に多く、全従業員が環境保全を意識し、積極的に取り組んでいる様子がうかがえる年となりました。長く継続して取り組むことが環境問題において如何に重要が再確認ができました。来年度も現体制を継続できるかどうか正念場となります。一層気を引き締めて取り組んでいきます。

□環境活動の紹介

事業活動を通して環境負荷の低減、あるいは訓練やシミュレーションを行い環境悪化(事故)を未然に防ぐ活動、周辺社会と協調をはかるための清掃活動などを行っています。

防火訓練

防火訓練を実施し、火災に備えています。



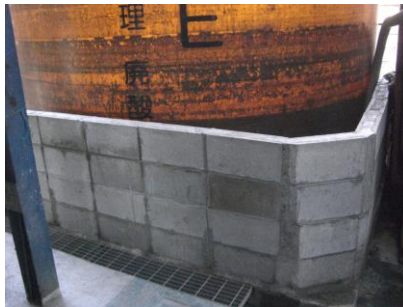
会社周辺の美化活動 (草刈、ごみ拾い)

年に数回、全社を挙げて会社周辺の清掃活動を行い、美化意識の高揚を図っています。



保管廃液の流出防止対策

廃液タンク回りに擁壁を設置して、施設外への流出防止に努めています。



二酸化炭素排出量削減の取組

二酸化炭素排出量削減の取組として、営業車はハイブリット車を使用し照明はLEDに変更を進めています。

